

国際学院新聞

第61号
(編集発行)
学校法人国際学院
〒330-8548
さいたま市大宮区吉敷町2-5
TEL 048 (641) 7468
FAX 048 (641) 7432
インターネットホームページアドレス
http://www.kgef.ac.jp/

主なニュース

- 55周年を迎えるにあたって、論説、KGブランド ……2面
- 幼児絵画展・味彩コンテスト開催、実習報告 ……3面
- インドネシアの中学校来校、クラブ活動報告 ……4面
- モンゴル料理講習会、世界異文化化学習会、IFW ……5面
- 体育大会・体育祭、五峯祭、研修旅行 ……6面
- ホームカミング講座、校友会・生徒会活動 ……7面
- 卒業生近況報告、ベストブック、進路体験記 ……8面

国連GCに国際学院が加入



「持続可能な開発目標」達成を目指す 教育内容と質の充実向上を図る

2030年を期限とする
17の目標(SDGs)

学校法人国際学院は、平成30年12月4日、国連グローバル・コンパクト(UNGC)に正会員として加入した。

この加入は、UNGCの目標実現に積極的に取り組む教育機関として認定されたことによるもので、2030年に向けて世界が合意した「持続可能な開発目標」(SDGs)の17目標、169ターゲット、230指標の実現に向けて、本学院の各校が具体的な取り組みを実施することになる。

UNGCは、戦後世界が合意形成してきた共通価値観を10原則にまとめ直し、これを内外のステークホルダーに浸透させる活動を通して、「健全なグローバル化」「持続可能な社会」を実現させようとする国際的な取り組み。1999年の世界経済フォーラム(ダボス会議)でコフィー・アナト国連事務総長(当時)が提唱し、2000年7月にニューヨークの国連本部で正式に発足した。2018年4月現在で161か国・1万2922の企業・団体が署名している。

今後においては、短期大学では、SDGsを掲げた卒業研究のゼミナール展開を図り、17の目標のいずれかに焦点をあて、研究の深化を図るとともに、地域の生涯学習の場として開催してきた公開講座においてもSDGsの目標を示し、よりの質の高い学びの提供を目指している。

また、中学校高等学校において、ユネスコのクラスルームネットワークへの

加入した。この国際学院を築いてこられた大野誠先生のその精神力、強さ、大きさを一つの象徴として存在させるべく、約半年間をかけた。このような機会をいただき心から感謝しております」とメッセージが語られた。

国際学院創立者 大野誠

学院長の胸像完成

大宮キャンパスで除幕式挙



学校法人国際学院創立者である大野誠学院長の胸像(肖像彫刻)がこのほど完成し、11月21日に大宮キャンパス玄関ホールで除幕式を挙

この胸像は、彫刻家の木田詩子氏によるもので、デビュー開始から完成まで約6か月間を費やし完成した。大野誠学院長の学校法

人国際学院創立から現在に至るまでの55年の長きに亘り、建学の精神に基づき「人づくり」を基本とした教育・研究、社会貢献活動への情熱と弛まぬ努力の積み重ねを表現している。除幕式に際し、制作にあたった木田氏から、「肖像彫刻とはその方の『象徴』です。重要なことはその方のお心、精神の拡大であり、それを読み取るのが私たちが彫刻家の仕事です。大変なご苦勞を重ねながら、大きな夢を諦めることなく、涙を勇気に変えて自らを奮い

また、大野誠学院長の胸像について、美術史の専門家である大野誠先生の胸像に並んで、国際学院をともに創立し、その充実・発展に心血を注いだ大野誠子名誉教授の胸像も設置される。

両胸像が、国際学院に学ぶ学生生徒、卒業生、教職員等をはじめとした多くのステークホルダーの心の拠り所になるものと期待されている。



大野博之理事長が藍綬褒章受章

陛下に拝謁、お言葉賜る

生徒派遣等により、今後も世界の人々と交流し、自らの意見を表明し、協働する等の実体験を重ねる中で、本物のグローバル人材養成を推進していくこととして

今回のUNGCへの加入により、国際学院全体としても、「私ができる身近な貢献とは何か」を常に追求し、「持続可能な開発目標」

の實現を目指し、教育内容と質の充実向上を図っていくことになる。

また、同氏は、これまでに関東信越税理士会会長、日本税理士会連合会副会長等の重責を歴任し、税理士として税務に関する専門家として、国や地域に多大な貢献をしてきた。同氏の今後さらなる活躍が期待されている。

また、同氏は、これまでに関東信越税理士会会長、日本税理士会連合会副会長等の重責を歴任し、税理士として税務に関する専門家として、国や地域に多大な貢献をしてきた。同氏の今後さらなる活躍が期待されている。

また、同氏は、これまでに関東信越税理士会会長、日本税理士会連合会副会長等の重責を歴任し、税理士として税務に関する専門家として、国や地域に多大な貢献をしてきた。同氏の今後さらなる活躍が期待されている。

また、同氏は、これまでに関東信越税理士会会長、日本税理士会連合会副会長等の重責を歴任し、税理士として税務に関する専門家として、国や地域に多大な貢献をしてきた。同氏の今後さらなる活躍が期待されている。

また、同氏は、これまでに関東信越税理士会会長、日本税理士会連合会副会長等の重責を歴任し、税理士として税務に関する専門家として、国や地域に多大な貢献をしてきた。同氏の今後さらなる活躍が期待されている。

また、同氏は、これまでに関東信越税理士会会長、日本税理士会連合会副会長等の重責を歴任し、税理士として税務に関する専門家として、国や地域に多大な貢献をしてきた。同氏の今後さらなる活躍が期待されている。

国際学院創立55周年記念講演会

講師にキックコマン総合病院の久保田院長を迎え開催



12月12日の学院創立55周年記念講演会がキックコマン総合病院の久保田芳郎院長を講師に迎え、「食と健康」をテーマに、大宮ソニックシティ大ホールを会場に開催する。

久保田院長は、東京大学医学部を卒業後、東京大学

人生百年時代の到来を迎え、健康寿命の延伸が課題となるが、「日本一おいしい病院食」を目指す同病院の取組みを通じ、「食と健康」「食育の重要性」「長寿と生きがい」等の内容で、笑いの重要性に触れながらの講演を予定している。

また、同氏は、これまでに関東信越税理士会会長、日本税理士会連合会副会長等の重責を歴任し、税理士として税務に関する専門家として、国や地域に多大な貢献をしてきた。同氏の今後さらなる活躍が期待されている。

照 敦

文化芸術の秋、短期大学の音楽室から、童謡「ゆゆうやけこやけ」の歌声が聞こえてきた。覗いて見ると、三十数名の愛好家が講師の指揮に合わせ、身を乗り出して歌っている。専門的なことはわからないまでも心地よく耳に入ってくる。郷愁を覚えたのか、一緒に口遊んでしまうような素敵な歌声だ。一人ひとりの豊かな表情とともにその光景が今も脳裏に残る。大学公開講座の一齣である。

今年、大正七年(一九一八年)に童謡や童謡を掲載した文芸雑誌「赤い鳥」が刊行され、節目の百年を迎えた。国内各地で記念コンサートなどが開催されている。▼「赤い鳥」は子どもたちの心により添った真の芸術としての音楽の普及をめざした児童文学者・鈴木三三吉氏により発刊されたもので、以来、日本を代表する優れた詩人や作曲家の多くが四季折々の豊かな自然の風土や歴史、さらに人々のやさしい感情などを詩や曲に込めて表現している。日本が世界に誇れる大切な文化遺産である。▼公開講座が終了すると、一人の女性が声を掛けてくださった。小さい頃、愛する母がいつも傍で歌ってくれた童謡が自身にとって無形の宝物であり、懐かしさでこの講座に参加されたとのこと。童謡に因んだ幼少時の様々な想いも沁々とお話され、何か私の琴線に触れた。▼地域貢献として「人と人の心を繋ぐ公開講座」だからこそその感動であり、出会いでもあった。

また、同氏は、これまでに関東信越税理士会会長、日本税理士会連合会副会長等の重責を歴任し、税理士として税務に関する専門家として、国や地域に多大な貢献をしてきた。同氏の今後さらなる活躍が期待されている。

また、同氏は、これまでに関東信越税理士会会長、日本税理士会連合会副会長等の重責を歴任し、税理士として税務に関する専門家として、国や地域に多大な貢献をしてきた。同氏の今後さらなる活躍が期待されている。

また、同氏は、これまでに関東信越税理士会会長、日本税理士会連合会副会長等の重責を歴任し、税理士として税務に関する専門家として、国や地域に多大な貢献をしてきた。同氏の今後さらなる活躍が期待されている。

また、同氏は、これまでに関東信越税理士会会長、日本税理士会連合会副会長等の重責を歴任し、税理士として税務に関する専門家として、国や地域に多大な貢献をしてきた。同氏の今後さらなる活躍が期待されている。



IFWで最優秀ポスターチームを受賞

本年度のIFW(インターナショナル・フレンドシップ・ウィーク)が、11月18日から25日の間、13か国・地域から17校が参加して香港で開催された。

3日目に、Hong Kong Baptist Universityにおいてグローバル・ユース・フォーラムが開催され、各国の「自分たちの世代の考え」をポスターにまとめて、それぞれが発表した。

その結果、国際学院の生徒の発表が、各国からの票を最も多く集め、最優秀ポスターチームに輝いた。

賞状とトロフィーを手(写真左から奥村藍瑠さん、奥野木優音さん、大山莉果さん、山室遙さん、山崎柚奈さん)

また、同氏は、これまでに関東信越税理士会会長、日本税理士会連合会副会長等の重責を歴任し、税理士として税務に関する専門家として、国や地域に多大な貢献をしてきた。同氏の今後さらなる活躍が期待されている。

また、同氏は、これまでに関東信越税理士会会長、日本税理士会連合会副会長等の重責を歴任し、税理士として税務に関する専門家として、国や地域に多大な貢献をしてきた。同氏の今後さらなる活躍が期待されている。

また、同氏は、これまでに関東信越税理士会会長、日本税理士会連合会副会長等の重責を歴任し、税理士として税務に関する専門家として、国や地域に多大な貢献をしてきた。同氏の今後さらなる活躍が期待されている。

また、同氏は、これまでに関東信越税理士会会長、日本税理士会連合会副会長等の重責を歴任し、税理士として税務に関する専門家として、国や地域に多大な貢献をしてきた。同氏の今後さらなる活躍が期待されている。

また、同氏は、これまでに関東信越税理士会会長、日本税理士会連合会副会長等の重責を歴任し、税理士として税務に関する専門家として、国や地域に多大な貢献をしてきた。同氏の今後さらなる活躍が期待されている。

国際学院創立55周年記念号

国際学院創立者・学院長 大野 誠

学校法人国際学院は、昭和38年に埼玉県知事認可の公認大宮国際料理学院として開校以来、今年で55年目を迎えました。

本学院は、「人づくり教育」に重きをおき、建学の精神の徹底と教育方針を頑なに貫いてきました。

「国際」という名称は、当時、自民党副総裁の大野伴睦先生と、元文部大臣松永東先生から「これからの人々の生活の原点は、幼



論説



国際学院創立55周年に、短期大学の教育に関する大変ホットなニュースを届けられることは誠に喜ばしいことである。それは、短期大学の必修科目「卒業研究」がゼミナール形式という新たな取り組みを迎えることである。

現在、卒業研究は2年次の通年科目であり、学生がどの専門教育領域を選択するかの調査を1年次の修了前に実施し、4月頃に各人の決定した専門領域が知らされ、その後卒業研究領域に分かれ、担当教員の指導を受けながら題目を決め、授業時間割に設けられた時間

間を中心に取り組んでいる。研究題目が決まれば、2年次の後期の1月中旬頃を以て文献調査やアンケート調査、実験等に取り組み、得られた結果を論文としてまとめることになるが、経験のない学生が一定の期限内に仕上げるのは容易なことではなく、学生自身にとっても指導教員にとっても大変な努力を要する。論文が完成し、大学で受理された時の達成感、満足感に満ち溢れた学生の顔が目に浮かぶ。

このような展開が進められ、まとめられた「卒業研究」は短期大学図書館に永久保存されてお

り、現在、合計1,212冊に及んでいる。加えて、この学修成果は、毎年、全員ではないが2月に実施される卒業研究発表会において公開・発表されている。このように多大な教育効果を生み出しているが、これは指導に携わられている教員方の日頃のご努力の賜物である。

ゼミナール形式の導入

短期大学の「卒業研究」の新たな取り組み

短期大学専門教養教育の展開「と」のテーマで臨んだところ、平成19年に選定された。発表会には、これまで文科省大学振興課や他大学の学長はじめ、数多くの高等教育関係者が来場して学生の発表に聴き入り、数多くの好評を得た。

その内容は、多様な研究内容のレベルの高さ、洗練されたプレゼン、聴講する学生の態度等、総合的な学生の学修成果と共に、本学の教育活動の成果を確認することができると好評である。本学で実施されている「卒業研究」は、国からもその教

育内容が充実したものとしてみても認められている。

さて、この卒業研究が来年度からは1年生と2年生を一緒にしたゼミナール形式による授業が本格的に実施される予定である。ゼミナールとは、「大学の教育方法の一つ。教員の指導の下に少数の

像や能力を養成することを目指し、ゼミナール活動を通して、1、失敗から学び、挑戦し続ける人材養成、2、多様な人々と関わり、協働しながら、答えのない課題に納得解を見出す人材養成、の2点を挙げてレクチャーさうお願いしたい。

稿を終えるにあたり、学生がこの授業を受け、将来、社会人となつて自信につながり、理解力や創造力の向上に結び付き、確かな保育士、栄養士、調理師として地域に貢献できる素地となることを切に望むと共に、大いに期待したいものである。

副学長(教育研究担当) 田中 章男

等々の状況の中、国際学院埼玉短期大学では、産学官が連携して開発したプログラムに基づき、地域社会や企業内での食育推進を担う「認定食育士」を養成する講座を本年6月から開講した。

この講座は、文部科学省の委託事業「成長分野等における中核的専門人材養成

専攻として位置づけ、知識・技能の修得のみならず高い教養を身に付けた「短期大学士」の学位を取得できる調理師の養成を実現しました。

また、昭和60年に現理事長・学長の留学先であるカリフォルニア大学バークレー校の訪問を契機に、4年制大学の必要性を強く認識いたしました。

同時に、当時の畑和埼玉県知事の「15歳の春を悲しませるな」との言葉から後期中等教育校の必要性を痛切に感じ、当時の時代背景もあり、昭和63年に国際学院伊奈高等専修学校を開校し、その後、平成10年に国際学院高等学校へと改組しました。

さらに、平成25年には、中学校を併設開校し、国際学院中学校高等学校としました。

私共、今日まで人との出会いを大切に、数多くの師と仰ぐ人達の教えを人生の教訓とし、「人づくり教育」に邁進して参りました。

そうした思いが多岐の人たちの共感を得て、国際学院は支えられ、今日があるのだと信じています。

学院創立55周年を迎えるにあたり、本学院の歴史と伝統、諸先生方の教育にかける情熱に想いを馳せるとともに、改めて学生生徒の皆さんには、「誠実、研鑽、慈愛、信頼、和睦」の五つの言葉からなる建学の精神と、具現化するための「礼をつくし、場を清め、時を守る」の教育方針の一語一語をじっくりと考え、身を以て示してもらいたいと切に願っています。

認定食育士養成講座を開講

20代の朝食欠食の割合が高く、地産地消が進まない

等々の状況の中、国際学院埼玉短期大学では、産学官が連携して開発したプログラムに基づき、地域社会や企業内での食育推進を担う「認定食育士」を養成する講座を本年6月から開講した。

この講座は、文部科学省の委託事業「成長分野等における中核的専門人材養成

等々の状況の中、国際学院埼玉短期大学では、産学官が連携して開発したプログラムに基づき、地域社会や企業内での食育推進を担う「認定食育士」を養成する講座を本年6月から開講した。

この講座は、文部科学省の委託事業「成長分野等における中核的専門人材養成

座を実施している。今回の受講者からは、「講座で身に付けた実践に基づき知識等を活かして、地産地消や健康寿命延伸に寄与できる食育活動を実践したい」等の感想が寄せられている。

短期大学では、地域社会の食育推進に向けて、より多くの認定食育士を社会に送り出すため、次年度以降も講座の開講を計画している。

KGブランド確立へ3年目

時代の流れに即応した改革の推進へ

KGブランドの確立に向けた取り組みも3年目を迎えた。今後、成果の可視化と検証を進め、実効性の確保が求められている。

取組の可視化に向けて

したがって、さらに発展させたゼミナール形式の卒業研究を確実に推進させるには、教員一人ひとりが創意工夫して学生を成長させるという高いモチベーションが重要である。そのため、教員が一丸となって取り組むよう願っている。

可視化指標として18の数値目標を設定している。

本取り組みも3年目を迎えていることから、これらの数値をトレンド比較し、目標値の進捗や他校との比較等を基に取組みの成果を検証し、達成に向けた取組方法の見直しや目標そのものの見直しを図るなど、実効性ある改革の推進を図る必要がある。また、高大接続改革や高等教育における負担軽減の取り組みなどにおいては、積極的な情報発信も求められている。時代の流れに即応した改革の推進が正に重要となっている。

グローバル・コンバクトへの加盟

本年12月、学校法人国際学院をはじめ、国際学院中学校高等学校と国際学院埼玉短期大学は、グローバル・コンバクトに加入した。

これは、持続可能な成長を実現するための世界的な枠組み作りに参加する自発的な取り組みであり、国連が目指している持続可能な開発目標(SDGs)の実現に向けて、今後、学校法人国際学院並びに中学校高等学校、短期大学が積極的

財務情報

純資産更に増加

平成29年度の決算概況をお知らせします。

資金収支計算書では決算総額は約40億円となりました。収入の部では、学生生徒等納付金収入が対前年77百万円減少しました。支出の部では大宮キャンパスバリアフリー化工事、調理実習室改修工事、伊奈キャンパス渡り廊下設置工事等教育施設整備を行いました。全体では4億36百万円減額となりました。また、事業活動収支計算書では、教育活動収支は1億32百万円の黒字、教育活動外収支は17百万円の赤字となりました。

貸借対照表では、「資産の部合計」は、127億7百万円で、前年度末に比較し1億84百万円減少しました。「基本金」は、1号基本金が3億98百万円、2号基本金が20百万円増加しました。

以上の結果、「純資産」は、92億19百万円となり、前年度末に比較して、1億31百万円増加しました。詳しくは、当学院のホームページをご覧ください。

第33回 幼児絵画展を開催

96園・所から 892点の応募 最優秀作品賞など15の賞選出

幼児絵画展は、五峯祭（大学祭）に合わせて、11月3・4の両日、多くの来場者を迎えて開催した。昭和61年の第1回から数えて今年で33回目となる。

この絵画展は、埼玉県内の幼稚園や保育所、こども園等に通う年少児から年長



表彰式の様子

児までを対象に、幼児教育における表現活動への興味・関心を高め、県内幼児教育の振興に寄与することを目的としている。

今年度は、96園・所から892点の応募があり、展示会場は子どもたちの個性豊かな絵画が並んだ。

10月3日に行われた審査会では、石原進審査委員長をはじめ、15名の審査委員が、すべての作品を厳正に審査した。「ここがよし（個性が溢れているか・心がこもっているか・画面いっぱい描かれているか・喜びに溢れているか）」

表彰会場は、関係者すべての笑顔にあふれ、和やかな雰囲気にも包まれていた。この絵画展の運営には、教職員の他、幼児保育学科の学生が携わっている。

展示準備、メダルや折り紙の制作、会場装飾等は、将来保育者となった時に必要なスキルであり、貴重な経験である。殊に800点以上の絵画から年齢別にその特徴を学ぶことができる絶好の機会となっている。

毎年、五峯祭期間中に開催される幼児絵画展は、多くの親子づれや祖父母を含めた家族総出の来場者で賑わっている。

教育実習を終えて 保育者と子どもとの関わり

幼児児保育学科2年B組 大須賀瑞生

出身幼稚園で3週間教育実習をさせて頂きました。今回の実習では、「昨年の観察実習での反省点を活かす」を土台とし、「積極的



に子どもと関わり、気持ちよく出来るだけ汲み取り行動する」ことを目標に臨みました。

責任実習では、新聞遊びから次の活動に移る時のメリハリが足りない等のご指摘を頂きましたが、子どもたちが楽しく遊んでいる姿を見て、とても嬉しくなりました。今回の実習での学習成果を、今後、現場で活かしたいと思っています。

保育実習を終えて 保育の価値観広がる

幼児保育学科2年C組 中村 柊人

私は自転車約10分の所にある保育所で、12日間の保育実習を終えることができました。今回、実習を行った園では「はだし保育」を取り入れていて、園にいる時は常に裸足でした。遊ぶ時もご飯を食べる時も裸足なので、私にとってはとても新鮮なものでした。しかし、私は最初「はだし保育」に対してあんまり良いイメージは持っていませんでした。しかし、今回の実習で掃除の大切さ、子ども



を思う気持ちの向け方（環境構成等）を知ることが、私の「はだし保育」のイメージがガラリと変わりました。

責任実習はなく、部分実習を多く経験させて頂きました。散歩の時間では、安全を確保した上で子どもたちをどうすれば上手くまとめるか等について学ぶことができました。今回の実習を通して、保育所で働きたいという思いが一層強くなりました。

今後の課題としては、個人の関わりと全体を見るバランスを今以上に付けたいと思います。

児童養護施設実習を終えて 子どもと職員との関わり学ぶ

幼児保育学科2年A組 石船あかり

暖かな空間でした。その空間で一緒に食事をしたり、遊んだり、宿題をしたりして過ごしていく中で、この場所は子どもたちにとって「家」であり、一緒に生活する人たちは「家族」の様な存在であることを強く感じました。

また、子どもと職員の関わりや子どもの保護者との関わりについて丁寧な教養を頂き、多くのことを学ぶことができました。実際に実習してみないと分からないことがたくさんあることに気がきました。今回の実習で学んだことを忘れず、今後に繋げていきたいと考えています。



校外実習を通して学んだこと 信頼される栄養士へ努力

健康栄養学科 食物栄養専攻2年A組 小沢 珠嬉

私は、今回の校外実習で、事業所内の社員食堂で実習を行わせていただきました。実習では包丁を使用し、仕込み作業を行うことが多く、一度に大量の食材を指定の大きさや形に切る技術が必要とされました。私は校外実習の前に学内で実施される包丁テストのために、包丁の練習を重ね、すべての切り方を修得していたのですが、実習先の方々と比べるとスピードも技術も劣っており、まだまだ未



熟だと感じました。実習期間中は、仕込み作業のほかに、盛り付け、洗浄作業、事務作業にも携わらせていただき、社員食堂での栄養士業務を実際に経験することができました。日々新しい発見や学ぶべきことがあり、とても充実した10日間でした。

実習を終えて、私には栄養士に必要な知識や技術が足りないと感じることが多くありました。今回見つけた課題を残りの学生生活で克服し、実習での貴重な経験を生かして、多くの人々から信頼される栄養士になりたいと思います。

校外実習を通して学んだこと 実習で学んだ調理師の魅力

健康栄養学科 調理製菓専攻2年C組 木村 麻耶

私は1年次の2月に、東京都港区にある阪急阪神ホテルズ第一ホテル東京の調理現場で2週間校外実習をさせて頂きました。初年度は、主に食料の切



りものや盛り付けを行いました。はじめは指示されたことを行うことしかできなかったのですが、少しずつ正確な作業や時間を見ながらスムーズに行えるようになり、自分の成長を感じることができました。調理スタッフの先輩方がやさしく声をかけて下さったおかげでこの実習を頑張ることができたと思います。

2年次になり就職活動が始まると、この第一ホテル東京で調理師としてのキャリアを積みみたいと思い、採用試験を受け、内定をいただくことができました。入社してから常に向上心を持ち、校外実習や本学で学んだことを活かしながら積極的に取り組むたいと思います。

教育実習（栄養教諭）を通して学んだこと 事前準備の大切さ実感

健康栄養学科 食物栄養専攻2年A組 佐藤 佑香

くれて嬉しかったです。実際に授業を行ってみて、児童自身が答えにたどりつけるよう導くことの難しさを感じ、児童の目線に立ち、気持ちや考えを理解することが大切であると学びました。本番では、指導案を作成している時や授業の練習をしている時には想像もなかった事が起こりました。栄養教諭の現場では、あらゆる可能性を考えて事前に準備しておくことや柔軟な対応ができることが重要だと感じました。

この実習での貴重な経験を今後の学業に活かし、日々精進していきたいと思っています。



第26回 味彩コンテスト

県産食材使い腕競う



試食審査

平成30年5月3日に第26回「味彩コンテスト」が国際学院埼玉短期大学で開催された。このコンテストは、主催が国際学院埼玉短期大学及び同窓会「あすなろ会」・「けやき会」、後援団体として関東農政局、埼玉県、さいたま市をはじめ他6団体と、協賛団体は13団体の協力を得ての開催となった。

本コンテストは、食生活の改善や地産地消を目的とした料理コンテストとして平成5年から開催されている。昨年同様に、課題は埼玉県産の鶏卵や野菜と黒豚（高校の部は国内産豚肉）を使用し、一般の部は「ごはんにあう彩り主菜料理」、高校の部は「素材の味と彩りをいかした高校生

のバランス弁当」とし、一般・高校生を対象に募集した。応募者総数は356名（一般の部227名、高校の部129名）の応募であった。この中から、事前に第一次審査（レシピ審査）を経た一般の部18名、高校の部10名が、コンテスト当日の第二次審査（調理・試食審査）に臨んだ。

学内外の審査委員によって、一般の部は40分間、高校の部は45分間の調理審査後、出来上がった料理の試食審査が行われ、各賞が決定された。最優秀作品の学長賞は、一般の部では、分須智恵さんの「元気いっぱい！トトロチーズのねぎ

味彩コンテストの様子

は、5月8日付けの埼玉新聞にも掲載され、その意義や内容を広く埼玉県民に紹介された。

最優秀作品は五峯祭において、「彩り亭」のメニューとして多くの来場者に賞味された。

味と彩りをいかした高校生

の部129名）の応募であった。この中から、事前に第一次審査（レシピ審査）を経た一般の部18名、高校の部10名が、コンテスト当日の第二次審査（調理・試食審査）に臨んだ。

味と彩りをいかした高校生

の部129名）の応募であった。この中から、事前に第一次審査（レシピ審査）を経た一般の部18名、高校の部10名が、コンテスト当日の第二次審査（調理・試食審査）に臨んだ。

味と彩りをいかした高校生

の部129名）の応募であった。この中から、事前に第一次審査（レシピ審査）を経た一般の部18名、高校の部10名が、コンテスト当日の第二次審査（調理・試食審査）に臨んだ。

味と彩りをいかした高校生

の部129名）の応募であった。この中から、事前に第一次審査（レシピ審査）を経た一般の部18名、高校の部10名が、コンテスト当日の第二次審査（調理・試食審査）に臨んだ。

味と彩りをいかした高校生

の部129名）の応募であった。この中から、事前に第一次審査（レシピ審査）を経た一般の部18名、高校の部10名が、コンテスト当日の第二次審査（調理・試食審査）に臨んだ。



賞状とともに

射撃部

世界大会でメダルを

全国大会個人戦優勝・団体戦準優勝 渡部奏乃音（鴻巣市立赤見台中学校）

「射撃と出会って人生が90度変わった」。3年間の部活動生活を終えた今、私はこう感じています。

幼少期からヴァイオリンで音大を目指し、ピアノやバレエなどの芸術面に力を注いできたため、スポーツ

「射撃と出会って人生が90度変わった」。3年間の部活動生活を終えた今、私はこう感じています。幼少期からヴァイオリンで音大を目指し、ピアノやバレエなどの芸術面に力を注いできたため、スポーツ面で活躍することの楽しさを感じ、大会を終える度に込み上げてくる嬉しさや悔しさ、感動などたくさんを経験することにより更に射撃にのめり込んでいきました。

これまでの話では180度の変化はないかと思われませんが、13年間続けてきたバレエで培った「体幹」、ピアノやヴァイオリンに毎日取り組んできた「努力を

積み重ねる粘り強さ」は射撃の大きな土台となつていきます。他にも、一人で楽器を演奏する際には味わうこととの出来なかつた仲間同士で励まし合いながら切磋琢磨していく事、お互いに助け合っていくという事が出来る「仲間」の大切さや、コーチ・監督、顧問の先生方との信頼関係を築き上げることが勝利への鍵となるという事も実感しました。

射撃を始めたことにより日々の練習で指導して下さるコーチや監督、顧問の先生方を始め、友達として時にはライバルとして戦う仲間、そして、どんな時も一番側で支えてくれる家族の存在の有難さを感じ、常日頃から自分を支えてくれている周りの方々への感謝の気持ちを持つことの大切さを学びました。

また、他校の仲間と交流

する中で、練習場までが遠いためなかなか思うように練習が出来ないことや、学校からの支援がないという話を聞き、国際学院の射撃部はとても恵まれた練習環境で部活動をする事が出来るという事を改めて感じ、自分がこの様な環境で練習出来る事に感謝しています。

父からよく「人生に無駄なことは一つもない」と言われますが、まさにその通りだと思えます。これまで取り組んできた事が、自分の「現在」を確実に支えています。全てが繋がって、今年8月に行われた全国大会では、2年連続団体戦準優勝、個人戦優勝。10月に行われた国民体育大会では、20発競技・40発競技共に日本新記録・大会新記録で準優勝という、3年間の集大成として臨んだ全国の舞台で最高の結果を残すことが



出来ました。今まで私の為に周りで支えてくださった方々への感謝の気持ちを伝えられることが出来た試合になったと思います。

今後は「世界大会でメダルを獲得出来る選手」を目標に、進路先でも強いメンタル作りや人間形成に精進していきたいと思います。

陸上競技部

さらにも上へ飛躍誓う

小川 詩織（上尾市立南中学校）

私は、山梨県中銀スタジアムで開催された関東選抜高校新人陸上競技大会に400mハードルで出場し、優勝を成し遂げることができました。強い選手が集まる中で、優勝することができ

き、目標に対し有言実行をすることができたことをうれしく思います。

今年の8月、三重県で開催されたインターハイにチームとして数多くの種目で出場することができ、9年連続のインターハイ出場を達成しました。インターハイ終了後、新チームとなり、私は主将になりました。そのとき、私は、強かった3年生が抜け、自分たちが先輩たちのように全国の舞台で活躍することができるの



栄誉ある表彰台にて

か、大きな不安を感じていました。2年生は4名しかおらず、このままでは全国大会で優勝を成し遂げられなくてはいけません。しかし、チームが一致団結し、来年の沖縄インターハイを目指すと目標を定め、この夏から強い意識を持って練習を積んできました。

私は、文武両道を高いレベルで実践する陸上競技部に憧れ、本校への入学を決

めました。これまでの先輩方の活躍する姿に憧れを持ち、自分もインターハイに出場したいという強い思いがありました。入部当初、憧れの先輩方と同じユニフォームを着ているだけでも喜びを感じていましたが、実績もなく大きな舞台で活躍するほどの実力はありません。

本校陸上競技部に入部できて本当に良かったと思っています。多くの方々に支えられて、素晴らしい環境で陸上競技ができています。結果として恩返しができるようにしたいと強く思っています。

今大会を通して、優勝という結果を果たすことができ、チームを前に進めることができました。今大会の記録は満足していませんが、大きく飛躍できるように今後も練習に励んでいきます。高校生最後の沖縄インターハイに出場し、国際学院高等学校陸上競技部の10年連続インターハイ出場を成し遂げられるよう努力していきます。



写真はフェアウェルパーティーの様子

インドネシア中学校来校

3度目の来校、より深い交流に

11月2日から8日まで、インドネシアの中学校であるSekolah Islam Fitrah Al Fikri（セコラ・イスラム・フィットラ・アル・フィクリ）から教員2名・生徒11名の計19名が本校で滞在し、本校生徒と様々な交流活動を行った。

今回の来校は一昨年に続き3度目の来校であり、本校とセコラ・イスラム・フィットラ・アル・フィクリの交流がより深いものになっている証左であろう。

主な交流内容としては、

2日に歓迎会が開かれ、まずは吹奏楽部が敬演奏としてインドネシア国歌を伴奏した。インドネシアの生徒は、伝統的な踊りなどを披露した。3日は、大宮キャンパスで短期大学・通信制課程の五峯祭に参加し、日本の文化祭を体験することが出来た。4日から5日には、ホームステイを行ったが、緊張した表情でホストファミリーと顔合わせを行った生徒も、本校に戻ってからとても楽しかったことを笑顔で話してくれ、ホ

ームステイが彼らにとつて貴重な体験となったことを物語っていた。ホームステイを受け入れてくれた保護者の方々に心から感謝申し上げたい。

5日は、午前中は、体育の授業と一緒にバスケットボールをやったり、おみやみや書道をやったりと中学生との交流を楽しんだ。午後はユネスコ部の部員と馴染みで交流したのち、第一学年生徒全員の前でインドネシアについての紹介を行った。本校の生徒にとつて

あまり馴染みのないインドネシアの様子を知る良い機会を提供してもらった。6日には、再び大宮キャンパスに移動して、通信制課程の生徒と交流を行った。7日は午前中に一貫部の生徒と理科の実験教室を行い、アイスクリーム作りやシャボン玉の実験などを行いな

がら、交流を行った。午後のフェアウェルパーティーでインドネシアの生徒全員との挨拶から感謝の気持ちが述べられたことは、本交流がとても有意義だったことを物語った。

今回の交流を通して、本校生徒がとても積極的に話しかけている姿を何度も見ることができ、これまでの交流の成果が少しずつ現れていることを実感する交流となった。



日本文化に触れた4日間

歴史と平和を学ぶ

国際感覚も磨く

京都・奈良・広島 3泊4日

中高一貫部第2学年は、広島・京都・奈良にて3泊4日での修学旅行を行った。この旅行は、ユネスコスクールに通う生徒としての自覚をもち、世界遺産に

関する学習を進めること、日本の歴史について深く知り、国際感覚を高めることを目的としている。

この目的を達成するために、修学旅行を行う前に、事前学習として全員で分担を決め、訪問する県や各見学場所について、それらの特徴、見どころ、文化や歴史についてまとめ、資料集を作成し、理解を深めることができた。

初日は広島を訪れた。実際に見る原爆ドームや平和記念資料館の展示は、戦争がいかに恐ろしいものかを伝えていた。平和への思いをより一層強くし、その思いを胸に、中学校全体で作った千羽鶴を平和の鐘のふもとに奉納した。午後にはフェリーで宮島へ渡り、厳島神社と海に浮かぶ鳥居の美しさに、生徒たちは魅了された様子であった。

2、3日は京都を訪れた。実際に見る歴史的建造物の壮大さに目を奪われていた。特に現在授業で習っている室町時代に建てられた金閣寺と銀閣寺に感動している生徒が多く見受けられた。その他、京都国立博物館や京都大学、北野天満宮、清水寺、京都タワーなども訪れ、清水焼の絵付けの体験をするなど、古都京都への理解を深めることもできた。

この4日間の修学旅行では、19か所を訪れ、平和について考え、歴史について学ぶことができた。また、集団行動の大切さを改めて知ることができた。そして、何よりも、大切な仲間との、忘れることができない最高の思い出をつくることのできた素晴らしい4日間となった。これらの経験を、これからの学校生活に生かし、より充実したものとしてくれることを期待している。

クラブ活動報告

クラブ活動報告

モンゴル料理講習会開催

食を通じて国際理解学習

7月12日(木)に講師の下村ハンダスレン先生をお迎えし、東アジア北部に位置する内陸国であるモンゴルの料理を、食物調理コースの生徒64名が学習した。

この講習会は、本校が2010年7月にユネスコスクールへ加盟して2011年から「ユネスコスクールESDアシストプロジェクト」



下村ハンダスレン先生の実演

ト」として日本ユネスコ協会連盟より助成を受け実施されており、2012年から毎年、公益財団法人「埼玉県国際交流協会」にご協力をいただき、食を通じて国際理解学習を行うプロジェクトである。

本年度の講習会のメニューは、「ホーシヨール」「ホーシヨール」は生地に、イースト菌や食塩、砂糖やバター等を使用するのに対し、「ホーシヨール」は薄力粉と水の2種のみと非常にシンプルだ。

また、生地のみならず独特で、この工程に苦戦する生徒が続出した。それでも、下村ハンダスレン先生の実演を間近で見学し、意欲的に挑戦する姿が見られた。

今回学んだモンゴル料理は、保護者をはじめとする多くの人たちに紹介することを目的として、9月8日(土)、9日(日)に国際学院中学校高等学校で開催された「五峯祭」の模擬店で、ス

ユル(羊肉と野菜のスープ)、「トゥムスニーサラトゥウ(じゃがいものサラダ)」の計3品であった。

「ホーシヨール」は、小麦粉の生地にひき肉を詰め油で揚げた料理で、ロシア料理の「ピロシキ」に近いものを感じる。しかし、「ピロシキ」は生地に、イースト菌や食塩、砂糖やバター等を使用するのに対し、「ホーシヨール」は薄力粉と水の2種のみと非常にシンプルだ。

また、生地の包み方も独特で、この工程に苦戦する生徒が続出した。それでも、下村ハンダスレン先生の実演を間近で見学し、意欲的に挑戦する姿が見られた。

毎年、海外研究の事前学習として、国際理解教育を推進し、世界の様々な地域の文化を学ぶために実施されている。カナダは多文化社会であり、世界には様々な文化が共生していることと実感するため、この学習会でそれぞれの地域の文化およびその背景を学び、自国文化との相違点および類似点について理解することが目的である。

今年度も「ユネスコスクールESDアシストプロジェクト」の助成を受けたプ

世界異文化学習会

「ロシア」など10か国学ぶ

日本との相違と類似点を理解

万人受けするか不安であったが、本校の教職員を筆頭に多数の称賛を得る事ができた。たいへん嬉しく思う。これは生徒一人ひとりの自信と喜びに繋がる貴重な体験となった。

このモンゴル料理講習会を通じて、異国の食文化に触れることは、さまざまな国に目を向けるきっかけとなり、日本の食文化との違いについて考える良い経験となった。

そして、グローバルな視野を広げる貴重な学習会となった。

2年生は学習に真剣に取り組むつつ、下級生に助けを借りながら、確かな成長がみられた。3年生は、最上級生として、受験生として、真剣に学習に取り組む姿勢は大変頼もしく、下級生のお手本となった。下級生がそのような先輩の姿を見ることができるところである。このような毎年の積み重ねが、夏季進学合宿の良き伝統として受け継がれていくのであろう。

心通じる貴重な体験

IFW in Italy

2年J組 坂上 愛優

9月22日から29日まで4日間のイタリアのトリエステで行なわれる母国語としない人が多かれはInternational Friendship Week (IFW)に参加した。IFWには日本を含め10か国が参加

今年度も恒例の夏季英語合宿が、去る7月22日から西日の2泊3日で嵐山町にある国立女性教育会館に於いて行われた。この英語合宿は主にGTEC受験対策を中心として、大学受験での英語4技能試験対策も兼ねて開かれているものである。今回はGTECにスピーキング試験も新たに加わったため、その対策も盛り込まれた。

参加生徒は中学生30名及び高校生42名の総勢72名で、英語科教員が6名また、数学科・国語科教員が各2名ずつの3教科強化合宿でもあった。その日程は時間を軸として、大学受験で求められる能力が培われ、現実社会でも役に立つ英語力の基礎が身に立つよう行われた。GTEC受験で非常に優秀な成績を収める生徒も出現した。

中1から高2生までREADING/Writing-ASPEAKING能力によりレベル別のクラスに分かれた上で各分野を細分化した講習が行われた。具体的には、基礎固めから傾向と対策へと進み、各時間毎に小テストの実施・復習で理解を深めたことで各生徒にとり非常に効果的な学習となった。



IFWを終えて

2年J組 田村 丈

(上尾市立大石中学校出身)

9月22日から9月29日まで開催されたInternational Friendship Week (以下IFW)に参加しました。

僕は小さいころからイタリアという国へ大きな憧れを抱いていたので、今回の開催が決まった時は本当に嬉しく、心から楽しみにしていました。

ローマ市内では、数々の

有名な建造物が残る美しい街並みを見物しました。どの建物も2000年以上あるローマの長い歴史の中で建てられ、現存していることに感動しました。

トリエステでは現地の学校で全9か国の学生たちが集まり、自国の特徴や文化を発表し合っていました。

様々な国の同世代の人たちと英語でコミュニケーションをとることも、話すことが出来ることも良い機会になりました。

ホームステイでは家族み

んながとても優しく、積極的に話しかけてくれてとても嬉しかったです。

今回のIFWでは高校生でないとできない国際交流を経験できました。今回の経験を今後の人生に活かせるようにしたいです。

9月22日から29日まで4日間のイタリアのトリエステで行なわれる母国語としない人が多かれはInternational Friendship Week (IFW)に参加した。IFWには日本を含め10か国が参加

今年度も恒例の夏季英語合宿が、去る7月22日から西日の2泊3日で嵐山町にある国立女性教育会館に於いて行われた。この英語合宿は主にGTEC受験対策を中心として、大学受験での英語4技能試験対策も兼ねて開かれているものである。今回はGTECにスピーキング試験も新たに加わったため、その対策も盛り込まれた。

自国紹介では、浴衣を着て主に日本の四季と行事について紹介し、法被に着替えてソーラン節を踊りました。ソーラン節がきっかけとなりいろいろな国の人と話

今年度も恒例の夏季英語合宿が、去る7月22日から西日の2泊3日で嵐山町にある国立女性教育会館に於いて行われた。この英語合宿は主にGTEC受験対策を中心として、大学受験での英語4技能試験対策も兼ねて開かれているものである。今回はGTECにスピーキング試験も新たに加わったため、その対策も盛り込まれた。



今年度も恒例の夏季英語合宿が、去る7月22日から西日の2泊3日で嵐山町にある国立女性教育会館に於いて行われた。この英語合宿は主にGTEC受験対策を中心として、大学受験での英語4技能試験対策も兼ねて開かれているものである。今回はGTECにスピーキング試験も新たに加わったため、その対策も盛り込まれた。

今年度も恒例の夏季英語合宿が、去る7月22日から西日の2泊3日で嵐山町にある国立女性教育会館に於いて行われた。この英語合宿は主にGTEC受験対策を中心として、大学受験での英語4技能試験対策も兼ねて開かれているものである。今回はGTECにスピーキング試験も新たに加わったため、その対策も盛り込まれた。



心通じる貴重な体験

2年J組 坂上 愛優

(さいたま市立土屋中学校出身)

今年度も恒例の夏季英語合宿が、去る7月22日から西日の2泊3日で嵐山町にある国立女性教育会館に於いて行われた。この英語合宿は主にGTEC受験対策を中心として、大学受験での英語4技能試験対策も兼ねて開かれているものである。今回はGTECにスピーキング試験も新たに加わったため、その対策も盛り込まれた。



今年度も恒例の夏季英語合宿が、去る7月22日から西日の2泊3日で嵐山町にある国立女性教育会館に於いて行われた。この英語合宿は主にGTEC受験対策を中心として、大学受験での英語4技能試験対策も兼ねて開かれているものである。今回はGTECにスピーキング試験も新たに加わったため、その対策も盛り込まれた。

今年度も恒例の夏季英語合宿が、去る7月22日から西日の2泊3日で嵐山町にある国立女性教育会館に於いて行われた。この英語合宿は主にGTEC受験対策を中心として、大学受験での英語4技能試験対策も兼ねて開かれているものである。今回はGTECにスピーキング試験も新たに加わったため、その対策も盛り込まれた。

平成最後の英語合宿で

次なるステップへ

今年度も恒例の夏季英語合宿が、去る7月22日から西日の2泊3日で嵐山町にある国立女性教育会館に於いて行われた。この英語合宿は主にGTEC受験対策を中心として、大学受験での英語4技能試験対策も兼ねて開かれているものである。今回はGTECにスピーキング試験も新たに加わったため、その対策も盛り込まれた。

今年度も恒例の夏季英語合宿が、去る7月22日から西日の2泊3日で嵐山町にある国立女性教育会館に於いて行われた。この英語合宿は主にGTEC受験対策を中心として、大学受験での英語4技能試験対策も兼ねて開かれているものである。今回はGTECにスピーキング試験も新たに加わったため、その対策も盛り込まれた。

夏季進学合宿

1~3年生58名 3泊4日

同じ目標持つ仲間と切磋琢磨

例年以上の進路成果を期待

今年度も恒例の夏季英語合宿が、去る7月22日から西日の2泊3日で嵐山町にある国立女性教育会館に於いて行われた。この英語合宿は主にGTEC受験対策を中心として、大学受験での英語4技能試験対策も兼ねて開かれているものである。今回はGTECにスピーキング試験も新たに加わったため、その対策も盛り込まれた。

今年度も恒例の夏季英語合宿が、去る7月22日から西日の2泊3日で嵐山町にある国立女性教育会館に於いて行われた。この英語合宿は主にGTEC受験対策を中心として、大学受験での英語4技能試験対策も兼ねて開かれているものである。今回はGTECにスピーキング試験も新たに加わったため、その対策も盛り込まれた。

夏季進学合宿

充実した進学合宿

今年度も恒例の夏季英語合宿が、去る7月22日から西日の2泊3日で嵐山町にある国立女性教育会館に於いて行われた。この英語合宿は主にGTEC受験対策を中心として、大学受験での英語4技能試験対策も兼ねて開かれているものである。今回はGTECにスピーキング試験も新たに加わったため、その対策も盛り込まれた。

今年度も恒例の夏季英語合宿が、去る7月22日から西日の2泊3日で嵐山町にある国立女性教育会館に於いて行われた。この英語合宿は主にGTEC受験対策を中心として、大学受験での英語4技能試験対策も兼ねて開かれているものである。今回はGTECにスピーキング試験も新たに加わったため、その対策も盛り込まれた。

学年、学科を超えた交流

体育大会 ・体育祭



フェアプレー精神で取り組む (中高)

得点板導入で 優勝目指す意欲高まる

体育大会の委員長として仲間と一緒に昨年度の課題を振り返りました。昨年度の体育大会は競技中の得点が見えなかったため、今年度は得点板を導入しました。得点板を導入することで、得点を計算したり、作戦会議をしたりして、どのクラスも優勝を目指して競技に参加する様子が見られました。

チームワークの大切さ学ぶ 幼児保育学科2年C組 赤坂 京香



中学は白組が優勝

高校は色別対抗戦実施

中学校高等学校の体育祭は5月28日、上尾運動公園陸上競技場において開催された。当日は天候が不安視され、一時中断もされたが、無事全競技を行うことができた。

中学校の対抗の部では、白組が優勝を果たした。また、午後に行った演技発表においては練習の成果を十二分に発揮し、見事なパフォーマンスを披露した。今年度より高校生の部では学年縦割りの色別対抗戦

五峯祭

大 委員増やし活動充実

幼児保育学科2年B組 小室 里帆



今年の五峯祭は、「咲せよ五峯の花」をテーマに開催し、好天の中4、803人が来場されました。五峯祭の開催に向け、学科を超えての協働は様々な困難がありました。学生一人ひとりの声を大切に、一緒に考えることを心がけるとともに、一つひとつの問題に丁寧に取り組

つみ、大きな事故もなく、多くの笑顔溢れる五峯祭となりました。また、運営面では、昨年比べて五峯祭委員を増員し、その結果、より充実した委員会活動を行うことができました。委員長として不安はあり

ましたが、総括、学生委員をはじめ、先生方のご指導・ご助言を頂きながら、日々の学修成果を多くの方々に見て頂けたと思います。私は、これらの経験を通して「報告・連絡・相談」がいかに大切なものであるかを改めて学ぶことができました。



9月8日(土)・9日(日)、快晴のもと、第21回「五峯祭」が「New Stage」希望を胸に「の」のテーマのもと開催された。今年のクラス展示最優秀賞には3年C組「トレジャハン」が選ばれ、クラ

スTシャツコンテストでは1年J・K組の合同デザインが最優秀賞を受賞した。中学校では1年生がクイズ形式による世界の紹介、2年生がオリジナル動画、3年生が演劇を披露し好評を博した。

中学校 高等学校

大盛況の2日間！

模擬店や部活動紹介活況

調整師専攻による模擬店は例年通り活況をきたし、スムーズに発表することができたので嬉しかったです。今回のオーストラリア研修を通じ、異国の文化に

れ、自主性も高めることができました。このような体験ができ、自分が成長することができて本当に良かったです。

部活動では恒例の射撃体験、吹奏楽部や軽音楽部の演奏も大いに盛り上がりを見せた。また、五峯祭に欠かすことのできないほど恒例となつた伊奈町備前太鼓公演、保護者会によるカフェで

は、伊奈町観光協会協賛の「ばら」を題材にした特産品の販売やバザー、一貫部保護者によるフェアトレード商品の販売が行われ、盛況のうちに幕が下りることとなった。

オーストラリア研修

オーストラリア研修を通して様々なことを学びました。

はじめのホームステイでは直に異国の文化に触れることで体験して得ることが多くありました。特に私は英語が特別得意な方ではありましたが、ジェスチャーなどで表現するこ

とにより、コミュニケーションをとることが日本にいた時よりも上達していました。また、何事にもチャレンジしてみる精神もつき、自主性も身についたと思います。

シドニー大学ではオーストラリアの食事の考え方や栄養士のことについても教えていただきました。日本との違いなどを詳しく教えていただき、食事の考え

方などについての知識も深めることができました。スピーチも毎朝授業前に練習した成果を出すことができ、

カナダ研修では、12日間のホームステイとバンクーバーアイランド大学(VIU)での講義とアクティビティ、2日間のビクトリア

おおよびバンクーバーでの市内観光等を経験しました。ホームステイでは、文化の違いに戸惑いを感じる部分もありましたが、分からない単語はその場で調べる等して自分から積極的にコミュニケーションを取り、ホストファミリーと楽しく会話をしたり、毎晩一緒にコメディドラマを観たりする等、充実した毎日を送

カナダ研修

幼児保育学科2年B組 中島 めい

異文化に触れた有意義な研修

カナダ研修では、12日間のホームステイとバンクーバーアイランド大学(VIU)での講義とアクティビティ、2日間のビクトリア

おおよびバンクーバーでの市内観光等を経験しました。ホームステイでは、文化の違いに戸惑いを感じる部分もありましたが、分からない単語はその場で調べる等して自分から積極的にコミュニケーションを取り、ホストファミリーと楽しく会話をしたり、毎晩一緒にコメディドラマを観たりする等、充実した毎日を送

実践的な英語を身につけることができました。この研修を通して、現地の方の優しさを身近に感じながら、異文化やコミュニケーション方法について学ぶことができました。この経験を活かし、将来に役立てたいと思います。

来、宿泊研修が充実したものでなりました。事後学習では、学科を超えて、共通の研修目的をもつ合同班を結成しました。

この取組みは、今回が初めてのことです。連絡の伝達が難しく感じることもありましたが、報告会では、学科ならではの専門的な視野を持ち発表を行うことが出来ました。幼児保育学科の発表では、健康栄養学科の発表では初めて知ることも多く、良い刺激になりました。

研修の授業を通し、一人ひとりが普段は味わえない経験や気づき、多くの学びがありました。そのことをしっかりと心に留めて、残りの学生生活で存分に発揮したいと思っています。

本研修で生徒たちは、自己効力感をもって仲間や現地の人と積極的に交流しながらすべての行程に興味関心を持ち臨んでいた、潜在的に持っているコミュニケーション能力や社会性に驚かされた。この後、生徒たちはホームステイ先で学んだことの発表を行うが、感受性豊かな内容に期待が寄せられている。

カナダの文化や習慣学ぶ

国内は福島で語学研修、座禅体験

今年度も高等学校第2学年の海外研修・語学研修・国内研修が実施され、大きな成果を得た。

海外研修コースでは、2泊3日のホームステイ、バンクーバーやビクトリアでの班別研修、現地の高校生との交流などを行った。カナダの文化や習慣などを体験的に学ぶ貴重な機会となった。

国内研修コースでは、福島県にあるプリティッシュヒルズで2泊3日の語学研修、座禅体験などのコースについて再認識するよい機会となった。

研修旅行(通信制課程) 飯田市で農山村や自然体験研修

通信制では年に一度宿泊を伴う学習を野外活動や総合的学習の時間の中で行っている。社会性や主体的判断力、他人を思いやり協調する心を育むことを目的として、今年度は長野県飯田市等で農山村体験や自然体

験を行うことができた。初日は大宮学習センターにて出発式を行った後、飯田市までバスで移動した。その後ふるさと水引工芸館で昼食をとり、農業体験として山ぶどうの収穫を行った。この日は現地の人でも休みにするような雨が降っていたが、生徒はカッパを着用し、靴をビニール袋で覆い、見通しの悪い視界とぬかるんだ地面の中であつたが、楽しいと感じるほど意欲的に臨んだ。その後対面式を行い、各班に分かれホームステイを行った。

2日目は離村式でお世話になった方々にご挨拶をし、農業体験を再び行った後、役割に別れ田舎料理を作り、それを昼食とした。その後のアクティビティは、国の名勝に指定されている天竜峡の壮大な奇岩の間から下っていくラフティングと、国の登録有形文化財である杵原学校の中で行う絵付けの二つに分かれて行った。その後、宿に入り、炉端焼きの夕食をとった。食事後は自由な時間となるが、実行委員が企画した花火大会と、ゴンドラに乗って日本一の星空ツアーに参加し高校生活の思い出を充実させる生徒もいた。

3日目は宿を離れ、山梨県北杜市にある清里丘の公園で昼食と自由行動時間を活用して、動物に触れあつたり、スポーツを行った。そして過ごした後、全員でパーティーを行った。

本研修で生徒たちは、自己効力感をもって仲間や現地の人と積極的に交流しながらすべての行程に興味関心を持ち臨んでいた、潜在的に持っているコミュニケーション能力や社会性に驚かされた。この後、生徒たちはホームステイ先で学んだことの発表を行うが、感受性豊かな内容に期待が寄せられている。

研修をするのができた。もちろん、成果だけでなく課題も見つけた。それらを今後の学校生活に生かしていきたいことを確信している。

研修旅行(通信制課程) 飯田市で農山村や自然体験研修

通信制では年に一度宿泊を伴う学習を野外活動や総合的学習の時間の中で行っている。社会性や主体的判断力、他人を思いやり協調する心を育む

第1回ホームカミング講座開講

57名の卒業生が受講

「発達障害と対応法」学ぶ

五峯祭に合わせ開講

「今後の保育に生かせる」と好評

短期大学では、卒業生の支援を目的に「卒業生調査」で講座の内容として希望が多かったものを「ホームカミング講座」として位置づけ、多くの卒業生が来学する五峯祭に合わせて開講した。

第1回は、希望の多かった発達障害とその対応法等についての内容で、11月3日、埼玉大学教育学部付属特別支援教育臨床研究センターの高田専門相談員を講師に迎え、「幼稚園・保育園における気がかりな子どもへの対応」子どもたちの困り感に寄り添って」をテーマに開催した。

参加者は、現職の幼稚園教諭や保育士が多く、定員40名に対し57名からの申し込みがあり、同テーマに対する関心と期待の高さがうかがえた。

講演内容は、多くの事例に基づき「あたりまえや頑張り」で来たことへの称賛の活用」や「発達障害とは何か」「発達障害支援を意

図もへの対応」子どもたちの困り感に寄り添って」をテーマに開催した。

参加者は、現職の幼稚園教諭や保育士が多く、定員40名に対し57名からの申し込みがあり、同テーマに対する関心と期待の高さがうかがえた。

講演内容は、多くの事例に基づき「あたりまえや頑張り」で来たことへの称賛の活用」や「発達障害とは何か」「発達障害支援を意



高田専門相談員の講演を熱心に聴く卒業生

同窓会活動報告

同窓会会長に新野忠史氏(けやき会)再任

平成30年度国際学院埼玉短期大学同窓会臨時総会が7月22日、大宮キャンパスで開催された。

今年度は役員改選の年度に当たり、日曜日にも関わらず、大野誠同窓会名誉会長、大野博之同窓会顧問をはじめ、多数の役員が出席し、盛会となった。

第一号議案である役員改選の審議の結果、現会長の新野忠史氏が満場一致で再任された。

また、中村治美副会長(つくし会会長)、大野智子副会長(あすなろ会会長)も再任され、新たに副会長として、河越正美氏(けやき会会長)が選出された。

再任された新野会長は、「今年4月から、短期大学

短期大学学友会活動報告

さらなる進化 後輩に期待

学友会執行委員

専攻科健康栄養専攻2年 細田 幸汰

5月に定時総会を開催し、今年度の活動計画や役員選出等の議題の審議を行いました。また、その後の体育大会において、学友会企画として全員参加型の「じゃんけん大会」を行いました。定時総会から体育大会まで、日にちがない状態でどちらも無事に終えることができたのは、学友会役員一人ひとりが自分の仕事を遂行したからだと感じています。

10月、五峯祭準備では、同窓会の先輩方と学友会役員が話し合い、当日の計画と準備の打ち合わせを行うことができたため、五峯祭当日は差無く進行し、来場者の方々にも楽しんでいただくことができました。同窓会の方々との関わりを通して、社会で働く栄養士、調理師、保育者の先輩方の現場での技術を間近で見ることができたことは、私たちにとても大きな糧となりました。また、今抱えている不安などを先輩方に相談できたことが、今後の大きな手がかりになったと思います。

アに参加していましたが、今年度は定期試験と重なったため参加を断念しました。しかし、ボランティアを支援する立場から、11月に開催される「さいたまミニ西区」に参加することとしました。子ども達が主役となってまち作りを行うサポート役です。この原稿を執筆している今はまだ開催され



昨年までは「大宮夏祭りこども広場」のボランティア



五峯祭で子どもたちとのふれあい

伊奈町のお米を使った料理コンテストで優秀賞受賞

健康栄養学科の石坂七絃さん



優秀賞を獲得した石坂七絃さん

伊奈備前守忠次公の功績を広く知ってもらおうと、伊奈町の豊かな恵みである「お米」をもっと多くの人に味わってもらおうことを目的に、コメ・米粉を使った「伊奈で採れるおいしいお米で、米」(マイ)レシポコンテストが11月24日、伊奈町で開催された。

1次審査(書類審査)を通過した5人による2次審査(調理審査)が実施され、短大健康栄養学科1年A組石坂七絃さんが、「伊奈町の真珠蒸し」と題し、団子の中心に栗を入れ、周りに米をまぶし枝豆でトッピングしたメニューを提案し、優秀賞を受賞した。

常に斬新に、今残せる最高の結果を目指して

高等学校・中学校生徒会活動報告

今年度の活動としては各種募金活動、アッセンブリなどの運営、そして最も

力を注いだことは、やはり国際学院中学校高等学校のビックイベントである五峯祭の運営です。

第21回五峯祭は9月8日、9日の2日間にわたり



開催させていただきました。五峯祭を成功させるうえで協力してくださった多くの方々、またご来場してくださった皆様にご心よりお

礼申し上げます。

今回の五峯祭の運営では数々の専門委員会と協力することを意識しました。なるべく多くの生徒が五峯祭の運営に主体的に関わるよう、より活気あるイベントにしたいと考えたからです。

生徒会本部としては、各委員会それぞれの役割の決定、Tシャツコンテストの開催、エンディングムービーの作成、さらに五峯祭実行委員の皆さんと協力して校舎全体の装飾を行うなどといった活動を行いました。

加えて、前年度の五峯祭で2号館の来場者数が少なかったという反省に基づき、2号館に向かう順路を確立し、方向を示す掲示物を貼ることに加えて前年度は行っていた無かった2号館全体の装飾を実施するなどの工夫を凝らしました。

その成果もあってか、昨年度に比べ2号館に入りに来てくださる方が増えたという印象を受けました。

また、毎年の課題であるTシャツコンテストの投票者数についても、一票でも投票数を増やし、コンテスト

を活気づけることを目標に、役員全員でアイデアを出し合いました。もちろん、こうしていたらよかつたのかもしれない、今の自分ならこう考えるの、と思うところが無いといえれば嘘になります。

しかし、五峯祭が成功に終わったということは胸を張って言えます。それは生徒会役員全員で、素晴らしい五峯祭の実現に向けて、力を合わせることでできたからです。

今期の役員は1年生も多く、過去に役員として五峯祭を経験していたのは自分だけだったので不安もありましたが、このメンバーだからこそかえって新しい考えを活動に反映させることもできて、より良い成果をあげることもできました。

さらに頼んだ仕事もきっちりするので頼りがいもありました。私はそんな役員が大好きです。本当に素晴らしい活動が行えたと思います。

来年度も更なる発展を目指し、全身全霊を傾けて取り組んでいただけたら幸いです。

卒業生の近況報告

国際学院埼玉短期大学平成18年卒業



病院保育室勤務

梅澤佐季子

私は国際学院埼玉短期大学を卒業後、認可の保育園に8年勤務しました。1年目は2歳児クラスの担任をさせて頂きました。が、「魔の2歳児」と言われるイヤイヤ期の子とも達と過ごす1年間は毎日が必死であつたという間でした。しかし何とか周りの先生方に助けて頂きながら、保育士になって初めてのクラス

「働く保護者の力に」

をやり遂げ、3歳児クラスへ送り出すことができました。一緒に過ごしてきた子ども達を振り返ると、とても大きな成長が見られた1年間でした。オムツがはずれ、パンツで過ごせるようになり、言葉のやり取りもできるようになりました。お友達と手をつないでお散歩ができるようになりました。私はこのような子ども達の成長をもっと長く見守っていきたく感じるようになりました。

社会で役立つ短大時代の協調力

自分たちで話し合うようになり、運動会などの行事では年下の子を引っ張っていかけてくれるようになりました。このような子ども達の成長を見て、自信をもって子ども達を小学校へ送り出すことができ、保育士としてのやりがいを感じるようになりました。

私の短大での2年間の思い出は、同じクラスの友達と五峯祭や体育祭などの行事に力を入れてきた事です。朝、お昼休み、放課後、できる限りの時間を使って話し合ったり、準備をしてきました。行事の後はクラス全員で反省会もしました。その成果が最優秀賞を頂いたり、今でも良い思い出として残っています。

私は、9月15日に四年制大学入学試験を終えました。この日に向かって、8月2日から5日に行われた陸上競技の全国高校総体も控えており、部活動の活動時間の空いている時間を活用して勉強をしていました。

進路体験記

部活動との両立に成功

大久保清楓（上尾市立上尾中学校）

日本女子体育大学進学



陸上競技続け記録向上めざす

ある絵本の読み聞かせの練習もしていました。合宿後は、部活動には参加せずに練習の時間を利用して入試日まで勉強をしていました。面接練習は、毎日顧問の児玉先生に指導を受けていただきました。

附属幼稚園で実習学べる魅力

私が日本女子体育大学を受験した理由は2つあります。1つ目は、附属の幼稚園があるという事で座学だけでは学べない実習や演習を通して学べることに魅力を感じたからです。2つ目は、小学生から始めている陸上競技を続けたいと考えているからです。高校では納得のいく記録を出すことができなかったのですが、大学に入って記録を伸ばしたいと考えたからです。

ベスブック

「ぼー」は、ウラルフクロウとモリフクロウのハイブリッド（混血）。動物好きの集まる「フクロウカフェ・リトルズ」に通ううちにフクロウに魅せられ、「ぼー」を飼うことになった荻谷さん。「ぼー」と暮らす荻谷さんの日常が、楽しく描かれている。



荻谷夏子・著 『フクロウが来た』 『ぼーのこころ』 筑摩書房

動物好きもそうでない人にもお薦め

動物好きの方は、あまり馴染みのないフクロウの習性などに興味を惹かれるかもしれない。「動物はちよつと」という方は、朝から冷凍のウズラを解体して餌をやったり、糞を処理したりして「ぼー」と暮らす筆者の

国際学院埼玉短期大学 幼児保育学科 学科長

中村 敏男

心理状況を分析してみると、この本が読者の心の中を揺るがしている。私はといえば、「フクロウが来た」という題名に惹かれて読んだ本ではなかった。結論を先に言え、この本を手にしたのは「荻谷夏子先生」の書いた本だからである。そして、その本から得た

心癒めるフクロウの話

「ぼー」と荻谷さんの口聲

勉強会の指導者。本書の中で2カ所、大村は先生の当時の様子が紹介されている。少し脇道にそれるが、本書の中の「褒められた喜び」というのは、「ちゃんと見ていてもらった」という喜びでもあった。という筆者

はま先生に直接指導を受けた生徒の一人。現在、私たちの勉強会でも、大村は先生の考え方や指導の仕方をもとにご指導いただいている。



「ぼー」のしぐさや、筆者の温かな眼差しに引き込まれることになる。それは、荻谷さんの飾らぬ人柄、読み手の反応を計算したユーモア、「ぼー」へのいとおしさに溢れた観察眼によるものであると考える。埼玉県の国語

教育の礎を作った井上敏夫先生の、「平明達意」という言葉を思い出させる。一方で、時折ハッとする文章にも出くわす。「現代の暮らしは、生々しいことをできるかぎり排除して、できるだけこざいかに、においも穢れも死もどこかへ隔離し、そんなものは最初から無かったようなふりをし、気持ちよくものごとが進むように工夫の限りが尽くされている。（P48）」鷹匠と鷹とカモがいた冬の原で、命は決して軽視されていなかった。むしろそれを直視するしんとした気持ちが枯れ野原で共有されていたように思う。（P123）」

教育振興資金（寄付金）の募集

教育・研究の充実にご協力を！

本院は、今年、創立55周年を迎え、中学校高等学校、短期大学において、建学の精神及び教育方針に基づいた「人づくり教育」を実践し、社会に有為な人材を排出しています。こうした中、より充実した教育を実施するために、各種奨学金制度や海外研修の充実など、教育研究環境の整備等を一層進めていく必要があります。こうしたことから、多くの皆様方のご支援を得てこれらの課題に取り組むべく、教育振興資金として寄付金を募集しています。中学校高等学校、短期大学ともに、①教育研究の充実 ②奨学金の充実 ③教育研究施設・設備の充実を目的に募集し、使用させていただきます。近年の施設設備等教育環境の充実として、中学校高等学校において、2号館新校舎の竣工、本館並びにマコトホールの空調設備の全面改修、テニスコート（人工芝3面）の新設等を行っています。短期大学においても、校庭の人工芝化、本館トイレの改修、合同教室の机・椅子のリニューアル、本館のバリアフリー化（車いす用昇降機を設置等）等を実施しております。また、寄付金については、税制上の優遇措置を所定の手続きにより受けることができます。詳細については、短期大学のホームページに「教育振興資金募集について」として掲載しておりますのでご参照ください。 https://sc.kaget.ac.jp/ お問い合わせは、短期大学会計課まで。